スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

埼玉県伊奈町

自 治 体 名 ： 埼玉県伊奈町
担 当 課 名 ： 生涯学習課
電 話 番 号 ： 048-721-2111

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	14.79 ㎢
人口	44,808人 （令和8年2月1日現在）
公立中学校数	3校
公立中学校生徒数	1,239人 （令和7年5月1日現在）
部活動数 （運動部活動のみ）	41部活
地域クラブ活動数	1クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

現在当町の運動部活動は29部活あるが、令和5年度からサッカー部が合同部活動として活動する等、少子化のため、チームが編成できない状況になっている。今後も生徒数は減少していくことが想定されているため、部活動を維持していくことは難しいと考えている。

令和5年度に「伊奈町立中学校の部活動地域連携・地域移行検討委員会」を設立し、実証事業の実施についても検討を行った。

伊奈町で行う地域スポーツクラブ活動に、どのような要素が必要となるかを明らかにし、地域スポーツクラブ活動への移行の形を作るために令和6年度に実証事業を実施した。3中学校から生徒を募集して1ヵ所に集まって練習を行う形としたが、問題なく活動できたことは一つの好事例となった。

令和7年度は令和6年度に実証事業を行ったバドミントンについて地域クラブ活動を開始し、町内中学生を1ヵ所に集めて活動を行った。また、同様に剣道の実証事業を行った。

町立中学校生徒数見込み（令和5～10年度）　（単位：人）

生徒数	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年見込	令和9年見込	令和10年見込
伊奈中	318	296	277	276	267	270
小針中	842	822	728	692	670	657
南中	251	241	234	257	272	256
合計	1,411	1,359	1,239	1,225	1,209	1,183

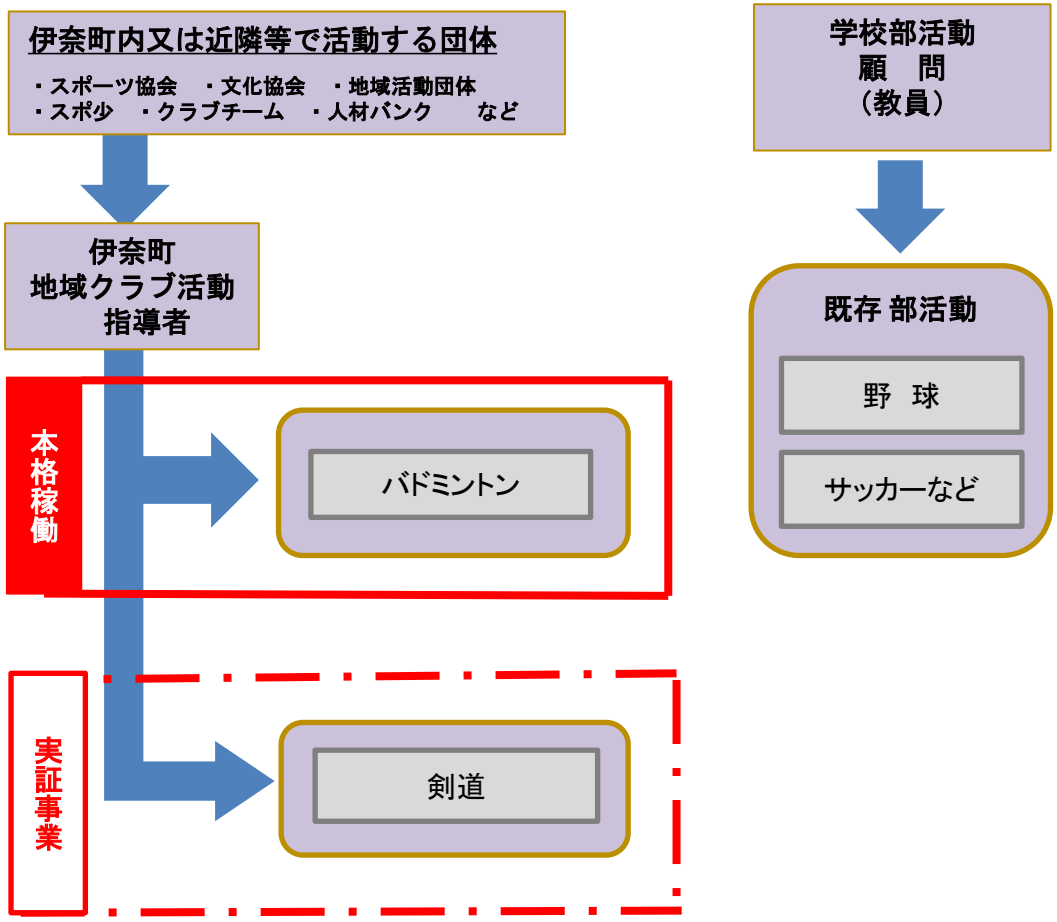
2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図

Ｒ７　伊奈町地域クラブ活動　実施体系図



年間の事業スケジュール

令和7年4月	バドミントン募集開始
令和7年5月	バドミントン本格稼働開始
令和7年6月	第1回検討委員会開催
令和7年7月	実証事業募集開始
令和7年9月	第2回検討委員会開催
令和7年10月	実証事業開始
令和7年12月	第3回検討委員会開催
令和7年1月	実証事業終了 第4回検討委員会開催

●行政組織内での役割分担

◉教育委員会
・生涯学習課…中学生の地域クラブ活動の環境整備
・学校教育課…部活動改革の主幹、学校との調整・連携、学校に関する事項について

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		2クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）		1クラブ（1部活動）※実証事業
	B：部活動にはない種目等、新規の地域クラブ活動数		1クラブ
全体の指導者数	13人	全体の運営スタッフ数	6人（生涯学習課4人、 学校教育課2人、全員他業務と兼務）

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数（平日・休日）	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
バドミントンクラブ	教育委員会直営	バドミントン	・休日35回	8:00～11:00 または 13:00～16:00	1年9人 2年8人 3年8人	5月17日から 1月31日まで	6人	6人 （内、兼務6人）	1,000円 /月額	不参加
剣道クラブ	教育委員会直営	剣道	・休日12回	9:00～11:00	1年7人 2年2人 3年2人	10月18日から 1月17日まで	7人	6人 （内、兼務6人）	500円 /期間を通じて	不参加

2.実証内容と成果

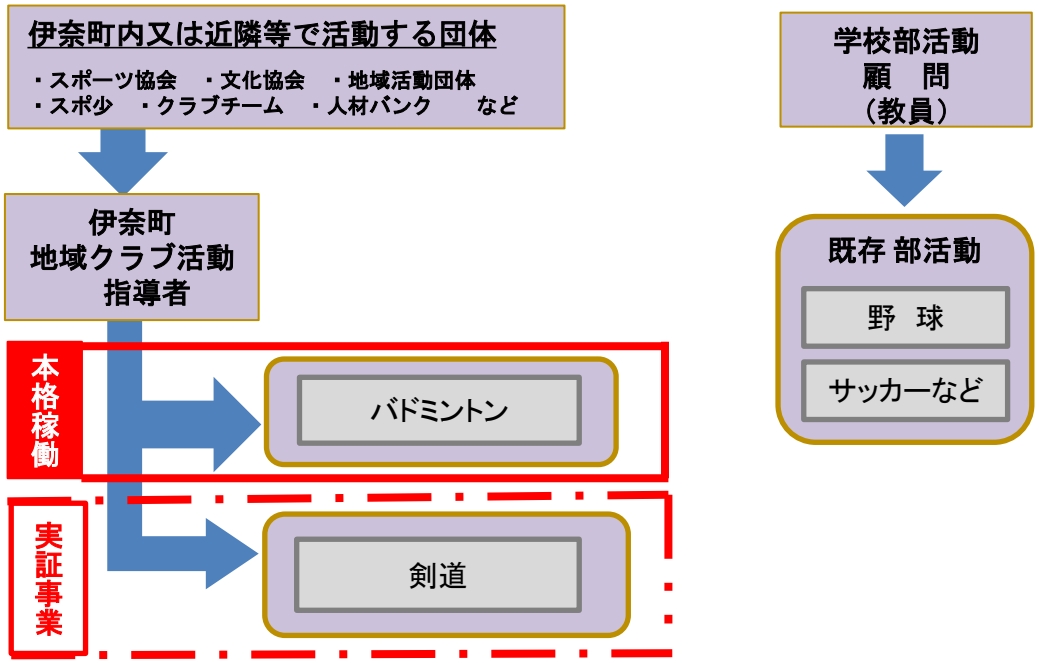
スポーツ庁

主な取組例

●伊奈町地域クラブ　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	バドミントン、剣道
運営団体名	伊奈町教育委員会
期間と日数	バドミントン：月4回程度 剣道：月4回程度
指導者の主な属性	会社員、自営業
活動場所	町立中学校体育館、武道館
主な移動手段	自転車、家族の自家用車
1人あたりの参加会費等（年額）	バドミントン：8,000円 剣道：500円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフ等の役割分担等

●自治体

役割：予算の確保、活動場所の確保、指導者の委嘱、生徒の募集、保険の加入、参加費の徴収、指導者への謝礼支払い、保護者への連絡、消耗品の購入、部活アプリの導入等を行う

●指導者13名

役割：指導を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- 教育委員会主体となり、3中学校の生徒を対象として、バドミントンに参加したい生徒を募集し、一つの中学校を中心に実施した。
- 参加者管理、参加者・指導者への連絡にICTを活用した。既存部活動にはない種目での本格稼働であったが、生徒の選択肢を増やす上で有効である。
- 既存部活動である剣道の実証事業を行うことができた。

取組の成果

- 町立3中学校に加え、町内学校を会場として活動を行うことができた。
- 部活動指導員が入っている部活動だったことや、母体となる地域団体があったことから、スムーズに活動ができた。

今後の取組における課題

- 実証事業を行った剣道については、重い道具を持って自転車で移動することは難しいとの声があった。

課題への対応方針

- 公共交通機関利用の検討や道具の置き場所について検討し、今後も3中学校の生徒が1ヵ所で練習を行っていきたい。

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

- 町内に所在するバドミントンのクラブチームや剣道の団体の指導者に担っていただいた。

取組の成果

- 日頃から指導していることから、指導者が体系的な練習メニューを考えていただけたことで、生徒の技術が上達していることが見て取れた。
- 参加した生徒も同じ団体に所属していることから、指導者との意思疎通も取れていた。
- 指導者による出欠や練習内容の記録についてもアプリを使用して行えるようになっていった方もいた。

今後の取組における課題

- 休日は指導できるが、仕事の関係から多くの日数は指導できないとの声があった。
- 練習内容等の共有を行うためにもアプリを使ってもらいたいが、まったく使っていない生徒や指導者がいた。
- 参加費の取扱や受け渡しに苦慮した。

課題への対応方針

- 多くの指導者を確保するために町にある既存団体との協力が不可欠であるので、町内及び近隣の団体への周知及び話し合いの機会を持って行く必要がある。
- 指導はできなくても見守り等の支援はできるという方の協力が得られるような体制作りが必要。
- 継続したアプリの利用が必要。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- 町内に所在する団体の代表者へ依頼した。

取組の成果

- 団体の代表者と連携することで指導者に集まっていただくことができた。また、情報共有等もうまくできた。

今後の取組における課題

- 他の団体で連携が取れる方を増やしていく必要がある。

課題への対応方針

- スポーツ少年団やスポーツ協会とも連携をして、団体とのつながりを作っていく必要がある。

●取組項目名　エ：面的・広域的な取組

取組事項

- 町内全3校に事前の周知、参加者応募を行い、全校から生徒が集まった。

取組の成果

- 部活動のない学校の生徒もその種目の活動を行うことができた。
- 種目によって一つの学校に集まって活動を行うことに抵抗を感じることがあることがわかった。

今後の取組における課題

- 新たに参加する生徒が少なかった。
- 遠い場所での活動となることから参加を止めた生徒がいた。

課題への対応方針

- 移動方法の検討や道具を置いておく場所の検討が必要。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　オ：内容の充実

取組事項

- 現在、町内において学校部活動として実施していないバドミントンを地域クラブ活動として本格稼働できた。
- 剣道では、既存の部活動がある2校と部活動がない学校の生徒が集まったが、問題なく活動できた。

取組の成果

- バドミントンをやりたい生徒が応募してくれた。生徒のニーズに応えることができた。
- クラブチームで活動している生徒と初心者が参加したが、指導者が練習メニューを考え、指導ができていた。
- 指導者間で練習方法についての打合せを行い、生徒に指導ができていた。

今後の取組における課題

- 学校や教員から既存部活動の地域クラブ活動化を進めてほしいとの声が大きくなっている。

課題への対応方針

- 既存の部活動について地域クラブ活動への展開を進めていく。

●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等

取組事項

- バドミントンは、受益者負担として、月額1,000円の参加費を負担していただいた。
- 地域クラブに係る経費を町単費で賄うことは難しく、新たな施設整備もできないため既存施設を利用した。

取組の成果

- 月額1,000円の参加費については、負担と感じた家庭はわずかであった。

今後の取組における課題

- 参加費用だけでは収支バランスが取れない。
- 剣道ではこれまで参加費を集めてこなかったことから、参加費を払うことに違和感を覚える指導者がいた。

課題への対応方針

- 他の歳入を考える必要がある。
- 種目によって参加費を考える必要がある一方、一定の金額は必要になることを説明していく必要がある。持続的な運営に必要な受益者負担額については引き続き試算していく必要があるが、参加費は集めていく予定である。
- 適正な金額や生活困窮家庭への支援等について検討していく。

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

●取組項目名　キ：学校施設の活用等

取組事項

- 中学校体育館、武道館で実施した。

取組の成果

- 学校部活動が体育館を輪番で使っており、その中に入れて時間を設定してもらうことで学校部活動との共存ができた。

今後の取組における課題

- 常に同じ時間で体育館を使うことについては、学校部活動への影響が大きくなってしまう。

課題への対応方針

- 学校と連携をしていくことがより必要となる。
- 学校以外の施設の利用に理解を得るためには非常に丁寧な説明が必要である。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

- 町立3中学校からも参加者あり、町内学校を会場として活動を行うことができた。移動による問題は実施する種目によることがわかった。
- 教育委員会が事務局となり、参加生徒の募集から行ったが、指導者や参加者、会場となった学校との連絡を密にできなかった。また、周知が足りなかったせいか、参加者数も想定よりも少なくなってしまった。
- 指導者が体系的な練習メニューを考えていただけたことで、生徒の技術が上達していることが見て取れた

●成果の評価

- 学校への周知方法として、部活動オリエンテーションでの実演を行い、目に見える形でPRを行った。
- 指導者を確保するために町スポーツ協会やスポーツ少年団で活動を紹介した。

●今後に向けて

- 参加生徒や指導者を確保するために、既存部活動を1つの場所に集めて行う活動を「拠点式クラブ」と名付けて活動を行う予定となっている。

2.実証内容と成果②

スポーツ庁

参考資料



【バドミントン活動風景】



【バドミントン活動風景】



【剣道活動風景】



【剣道活動風景】

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和4年	令和5年		令和6年		令和7年
教育委員会内での検討開始	協議会設置、実施種目決定、指導者の選定	学校現場との情報交換、調整	生徒、保護者への説明会の実施、実証事業募集	実証事業実施	本格稼働開始

令和4年度、令和5年度

- 経過

伊奈町において地域移行の開始を決定。

町広報紙を使っての周知を図るとともに、情報収集、中学校校長と情報交換を行なった上で、検討委員会を実施した。

- 実施にあたって生じた課題

生涯学習課が主担当として進めることになったが、学校現場のことについて不明なことが多いことから、学校教育課と協力して事業を進めることになった。また、地域移行についての情報が少なかった。

- 実施内容、工夫した点 等

担当者間での打合せ、情報収集、情報交換等を行った。学校関係については学校教育課が連絡調整を進めた。

令和6年度

- 経過

実証事業を行うにあたり、指導者や会場と学校と話し合いを行った上で、校長会での説明や教職員全体研修会での情報提供、生徒・保護者向け実証事業説明会を開催して実証事業を実施した

- 実施にあたって生じた課題

地域移行についての周知が足りていないことから、参加者が少なかった

指導者や会場校との連絡が足りなく、きめ細やかなフォローができなかった

- 実施内容、工夫した点 等

アプリの導入等連絡の効率化を図った

令和7年度

- 経過

実証事業を行ったバドミントンについて本格稼働を開始した。年間の活動にあたり、指導者や会場と学校と話し合いを行った。実証事業では既存部活動の剣道を行うにあたり、顧問とも面談し協力が得られた。

- 実施にあたって生じた課題

学校や部活動についての知識が無いことから事業をうまく進められないことがあった。

参加生徒を多く集めることができなかった。

- 実施内容、工夫した点 等

指導者と定期的に打合せを行い、指導しやすいよう改善を図った。

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

令和8年

- 地域クラブの活動

前年度の実証事業を踏まえ、年間の活動を行う地域クラブを増やしていきたい。

- 新たな取組の実施

既存部活動の地域展開の前段階として「拠点式クラブ」と名付けた活動を行う

- 課題等

顧問を行っている教員の意見等の擦り合わせや地域の指導者の確保。

令和9年

- 地域クラブの活動

年間の活動を行う地域クラブを増やしていく。

- 「拠点式クラブ」の拡大

「拠点式クラブ」の活動期間や種目を拡大していく。

- 課題等

地域クラブの活動を行える種目の選定や指導者の確保。予算の確保や庁内の協力体制の構築。

令和10年以降

- 地域クラブの活動

毎年地域クラブの種目数を増やしていきたい。

- 課題等

教員が地域クラブへの移行を求めている種目を知ることや生徒のニーズを捉えることが必要。